

訳語付き narrow reading による語彙導入の実践

A Practice of Vocabulary Introduction by Narrow Reading with Translation

山口 紗季¹ ・ 山下 直子²

Yamaguchi Saki, Yamashita Naoko

要約

本論文は訳語付き narrow reading (narrow reading with translation: NRT) を用いた語彙導入を実践し、その効果を検討するものである。訳語付き narrow reading (山口・山下2020) とは、ある一つのトピックに関する短いテキストをいくつか読むことによって、目標語彙を繰り返し学習者に提示する語彙導入方法である。テキスト内の目標語彙は太字にして目立たせ読みながらでも気付くようにし、訳語をつけて大量の語彙を扱う効率性とテキストの内容理解を両立させた。日本語学習者にNRTを用いた語彙導入を試みたところ、語彙習得に一定の効果が見られた。

キーワード：語彙教育、語彙導入、訳語付き narrow reading (NRT)、語彙リスト、テキストを読む活動

1. はじめに

第二言語学習において、語彙を増やすことは学習者にとって重要な課題であるにもかかわらず、語彙は教室外の自主学習で覚えるように指導されることが多い。授業では語彙を覚えていることを前提に文法学習や会話練習が進むため、学習者の語彙知識が不十分であると授業内容を理解することが難しくなる。語彙知識は少しずつ段階的に深まっていくものであるため、様々な方法で繰り返し学習者に目標語彙を提示する必要があるが (Meara 1980, Nation 1990, 岡崎・岡崎 2001), 学習者にとって最も負担がかかるのは新出語彙導入の段階だろう。

山口・山下 (2000) では、語彙リストと多読による語彙導入の利点と問題点を概観した。語彙導入に広く使われている語彙リストは、効率良く多くの語彙を扱うことができるが、暗記が得意な学習者でないと使いこなすことが難しいという問題がある。また、目標単語と訳語を対にして提示する方法は、目標言語と母語の間に意味の一对一対応があるという錯覚を学習者に与えやすい。その結果、言語間のずれに気づくことが難しくなり、比喩や使い分けの習得に支障が出るということがわかっている (今井 1993, 佐治・梶田・今井 2010)。

多読による語彙導入は、新出語彙の意味を文脈から推

測することになる。問題となるのはテキストに使われている語彙の95~98%が既知でないとテキストの内容を十分に理解することが難しく (Laufer 1989, Hirsh and Nation 1992, Hu and Nation 2000, Schmitt et al. 2011, 小森・三國・近藤 2004), 意味推測に失敗する可能性が高いことである。しかし、十分な内容理解を保証するためにテキストの既知語占有率を95~98%に設定すると、新しく導入できる語彙の数がかなり限られることになる。また、読む作業中は内容を理解することが最優先され、言語の形に注意を向けることは余剰な行為となるため、目標語彙に気づかないことが考えられる (Schmidt 1990)。そして、提示回数が多い単語ほど学習者に習得されることが明らかになっている (Waring and Takaki 2003, 三上・原田 2011), 間隔をあげずに同じ単語を繰り返し目にするためには、かなりの量を短期間で読む必要があり、語彙導入としては現実的ではない (Nation and Wang 1999, Laufer 2017)。しかし、Nagy et al. (1984) は、学習者にとって多読にかける時間は楽しみがあると同時に一般教養も得ることができ、語彙だけでなく読む技術も獲得できる有益な時間であるとしている。語彙に限定した指導では、このような付加価値を得ることはできない。また、読む作業とともに語彙を導入する利点は、学習者が何をしたら良いか明確であるため、暗記が苦

1 香川大学大学院教育学研究科修士

2 香川大学教育学部

手な学習者も取り組みやすいことである。

以上の点を踏まえて、山口・山下(2000)では、読む作業を通して語彙を導入する利点とともに、効率良く大量の語彙を扱うことができ学習者への負担が少ない語彙導入方法として、訳語付き narrow reading (narrow reading with translation: 以下NRTとする)を提案した。本論文は、実際にNRTを用いた語彙導入を実践し、その効果を検討するものである。

2. 訳語付き narrow reading (NRT) とは

山口・山下(2020)で提案したNRTとは、多読による語彙導入に以下の条件を追加したものである。

- ①一つのトピックに関する短いテキストをいくつか読む
- ②目標語彙に訳語をつける
- ③目標語彙を目立たせる

一つのトピック、あるいは一人の作家に限定して集中的に読むことを、narrow readingという。トピックによって使われる語彙や話の流れが決まっていること、作家によって好む表現や特徴的なスタイルがあることから、narrow readingは同じ語彙を繰り返し提示することが可能になる(Krashen 2004)。Hwang and Nation (1989)の新聞記事の調査からも、あるトピックに関する連続した記事を読むと、関連のない記事を手当たり次第に読むよりも同じ語彙を目にする回数が多いことがわかった。このことから新しいトピックを次々と与えるのではなく、ある特定のトピックに関するテキストを続けて読ませる方が語彙学習には効果があるとしている。一方で、Hirsh and Nation (1992)は、英語母語話者用の児童書に使われている語彙を調査したところ、1回または2回しか使われない単語が圧倒的に多かったため、長いテキストを読んでも語彙習得への効果は低いとしている。以上の調査結果から、NRTによる語彙導入で使うテキストは、一つのトピックについての短いテキストをいくつか用意することによって、目標語彙の提示回数を増やすことにした。

narrow readingは大量のテキストを読むことによって学習者の語彙が自然に増えることをめざすものであるため、この方法を語彙導入に活用するには、目標語彙に訳語をつけ目立たせる必要があると考えた。訳語をつけた理由は、文脈からの意味推測に失敗した場合、目標語彙を誤った意味で覚えてしまう可能性があるためである。また、訳語をつければテキストの内容を十分に理解するために必要な既知語占有率を気にすることなく、多くの語彙を導入することが可能になる。さらに、Ellis (1994)による脳に損傷を負った健忘症患者の語彙習得調査から、音や形と異なり意味だけは明示的に学習しなければ習得されることがわかっている。学習者が読む活動から楽しみや達成感を得る

には、未知語を調べるために読みが何回も中断されるべきではないため(Nation 1990)、訳語は漢字のふりがなのように目標語のすぐ近くにつけることにした。ただし、訳語だけに頼って語彙の意味を覚えると後々の比喩や使い分けの理解に支障が出るため、目標語彙の提示箇所全てに訳語をつけるのではなく、最初の一回のみで消した。そして、学習者がテキスト内の目標語彙に気づかなければ語彙習得が開始されないため、目標語彙は太字にして目立たせることにした。

3. NRTの実践

(1) 実践の目的

NRTによる語彙導入の実践を試み、テキストを読むだけであるNRTが語彙導入として機能するかどうかを検討する。

(2) 調査協力者および実践時期

調査協力者は、香川県の日本語学校に所属する21名の日本語学習者である。協力者の年齢は18歳～26歳で、主な出身地はベトナム、中国、フィリピン、台湾である。なお、フィリピン人、ネパール人、インド人の協力者は英語話者である。初級教科書『みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ』(2012・2013)を学習済みで、日本語レベルは中級である。協力者には、実践の目的と収集したデータは研究以外には利用しないことを事前に説明したうえで、参加承諾をもらった。

実践時期は2018年11月で、日本語学校の授業時間内に行った。12月に実施される日本語能力試験N3の合格をめざし文法・語彙を学習していた時期である。

(3) 材料

1) 目標語彙

目標語彙は、調査協力者たちが授業で毎日見開き1ページずつ進めている語彙の教科書(佐々木・松本2010)から選出した10語である(表1参照)。目標語彙を名詞のみとしたのは、検証の第一段階として活用によって形が変わらない名詞でNRTの効果を検討したかったためである。

2) テキスト

使用したテキストの一部を図1に示す。目標語彙が体の体調に関するものであるため、体調をトピックとした。松本・Oura・Gaynor(2015)を参考に、テキストの形式は会話文と説明文を用意した。テキストの長さは延べ語数で63～

表1 目標語彙

医師	患者
アレルギー	症状
調子	頭痛
吐き気	花粉症
めまい	うがい

114語で、目標語彙の提示回数ができるだけ多くなること、協力者が負担を感じることなく読めることを考慮して作成した。目標語彙は太字にして目立たせ、英語、ベトナム語、中国語の訳語をつけた。また、ほとんどの漢字にふりがなをつけて読む作業を妨げることのないようにした。目標語彙以外は、すべて初級教科書『みんなの日本語 I・II』で導入済みのものである。

3) 語彙導入後の確認テスト

語彙導入後の確認テストは、日本語能力試験の形式と同じ4択を検討したが、時間がかかることが予想されたため、目標語彙が適切に使われている文には○、不適切に使われている文には×を記入する2択のテストとした。10語の目標語彙に対し、適切に使われている文と不適切に使わ

れている文を用意した合計20問のテストで、テストの一部は図2の通りである。

4) 実践の流れ

図3は実践の流れを示したものである。

まず、既知語・未知語の確認として調査協力者に目標語彙の一覧表を配り、知っている単語に○、知らない単語に×をつけさせた。かかった時間は5分程度であった。協力者が知らない単語があることにプレッシャーを感じないようにするため、知らない単語のみに✓印をつけさせることを計画していたが、知っている単語に印をつけるのか、知らない単語に印をつけるのか協力者の間で混乱が生じたため○×に変更した。次に、NRTを用いた語彙導入を行った。NRTのテキストを読ませ、テキストにわからない箇所

医師：どんな**症状**がありますか。
 doctor symptoms

患者：頭痛がします。めまいもします。
 patient headache dizziness

医師：そうですね。では、この薬を飲んでください。
 患者：ありがとうございます。

患者：頭痛と吐き気がします。
 sickly feeling/feel like vomiting

医師：インフルエンザの**症状**でも、頭痛がします。
 flu

患者：インフルエンザにならないように、いつもがいをしているのですが。
 gargle

医師：いつから**調子**が悪いですか。
 condition

患者：三日前からです。

冬になると、インフルエンザの患者が増える。インフルエンザになると、高い熱が出る。頭痛や吐き気の**症状**が出ることもある。十日ぐらいで**症状**はなくなる。インフルエンザにならないために、いつもがいをしたほうがいい。体の**調子**が悪くなったら、はやく病院にいったほうがいい。

図1 訳語付き narrow readingによる語彙導入のテキスト

_____の単語の使い方が正しい文は○、正しくない文は×を書いてください。	
例) キムさんは日本語を勉強している学生です。	○
例) 木村先生は日本語を教える学生です。	×
①三日前から体の調子が悪い。	
②インフルエンザの花粉症です。	
③医師は病院で働いています。	
④症状なので、薬を飲みます。	
⑤花粉症なので、春はつらい。	

図2 確認テスト

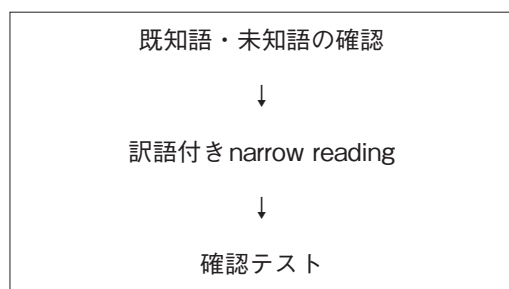


図3 実践の流れ

があっても辞書を使わずに読み進めるよう指示した。NRTのテキストを読むのにかかった時間は10分～15分であり、読んでいるあいだに協力者からの質問はなかった。最後に、テキストを読み終わった協力者から確認テストを受けさせた。

4. 結果と考察

既知語・未知語の確認の結果、既知語の数の平均は10語中3.76語で、最高8語、最低0語であった。どの協力者にも学習機会があったと言える。なお、10語中6語が漢字熟語だったため、漢字圏の調査協力者の既知語の数が多かった。確認テストの結果は表2のとおりである。左列に目標語彙を提示回数が多い順に並べ、それぞれの適切文と不適切文を正しく判断した協力者の数と正解率を示した。

目標語彙10語のうち7語で、適切文の正解者の数が不適切文の正解者の数より多かった。NRTのテキストは正しい用法のみを提示するため、目標語彙が不適切に使われている問題の判断が協力者にとって難しかったようである。しかし、「花粉症」と「うがい」に関しては、不適切文の正解者のほうが多かった。「花粉症」と「うがい」という言葉

自体が、訳語がついていても協力者にとって馴染みの薄いものであったことが理由として考えられる。「花粉症」の適切文として、「花粉症なので、春はつらい」という文を出題したが、協力者の出身地では「花粉症」と「春」を結び付けて考えない可能性がある。同じように、「うがい」の適切文として出題した「外から帰ったら、必ずうがいをしてください」という文は、日本ではよく聞くフレーズだが協力者にとっては聞き慣れないものだったと思われる。確認テストの文章を作る際に文化的な要素の検討が不十分であった点は、今後の課題である。

次に、既知語・未知語の確認のときに、未知語であったものが、NRTを通してどのように変化したかを表3に示す。表3の左列は、目標語彙を提示回数が多かった順に並べたものである。それぞれの語に対し、未知語と答えた協力者の数、未知語と答えた協力者のうち確認テストで適切文も不適切文も正解した人数、正解率を示した。確認テストは目標語彙が正しく使われているかを判断して○×を記入する単純なテストであったため、適切文も不適切文も正解した協力者の数を数えた。

未知語と答えた人数が最も多かった「うがい」では、提示回数が3回でも45%が確認テストで適切文も不適切文も正しく判断できている。「うがい」以外の語でも「花粉症」を除けば10回以下の提示回数で、ある程度の学習効果が見られる。語彙が習得されるのに、Nation (1990) は10回、Laufer (2017) は12回の提示が必要であるとしているが、この回数は直接的な意味提示なしにテキストを読んで付随的に語彙を学習する場合の回数である。今回の実践では、訳語をつければ提示回数が先行研究より少なくても、語彙の習得が開始される可能性が示唆された。

しかし、今回の実践の確認テストとして、語彙導入時点としては難易度が高い語彙の用法を問うテストを作成して

表2 確認テストの結果

目標語彙	提示回数	適切文の正解者の数	正解率	不適切文の正解者の数	正解率
医師	8回	21人	100.0%	20人	95.2%
患者	8回	21人	100.0%	17人	80.9%
調子	4回	21人	100.0%	8人	38.0%
頭痛	4回	20人	95.2%	10人	47.6%
アレルギー	5回	19人	90.4%	19人	90.4%
めまい	3回	17人	81.0%	17人	80.9%
吐き気	4回	17人	80.9%	16人	76.1%
症状	5回	16人	76.1%	13人	61.9%
うがい	3回	13人	61.9%	17人	80.9%
花粉症	4回	9人	42.8%	14人	66.6%

表3 未知語の変化

目標語彙	提示回数	未知語と答えた数	適切文も不適切文も正解した数	正解率
医師	8回	5人	4人	80.0%
患者	8回	12人	8人	66.6%
アレルギー	5回	18人	5人	27.7%
症状	5回	15人	2人	13.3%
めまい	4回	18人	11人	61.1%
吐き気	4回	14人	6人	42.8%
頭痛	4回	8人	3人	37.5%
調子	4回	3人	1人	33.3%
花粉症	4回	14人	0人	0.0%
うがい	3回	20人	9人	45.0%

しまったことに問題があった。Nation (2001) は、語彙知識を大きく形・意味・用法の三つに分けている。語彙知識は即時に全て得られるものではなく、時間をかけて深まっていくものであるため、語彙導入の時点では語彙の形と意味を結び付けられる程度の習得度をめざせば十分であったように思う。

5. まとめと今後の課題

本研究では、学習者への負担が少ない語彙導入方法を探るため、訳語付き narrow reading (narrow reading with translation: NRT) を用いた語彙導入の実践を試みた。その結果、NRTによる語彙導入には一定の効果が見られた。語彙リストによる語彙導入と比較して優れている点は、目標語彙の意味だけでなく、どのように使うのかも文脈と

もに提示でき、トピックについての知識も深められることである。なによりテキストを読むだけで良いので、与えられた教材に対し学習者が何をすべきか明確で、暗記が苦手な学習者も取り組みやすいと思われる。そして、語彙の獲得とともに文章を読む練習ができることも大きな利点である。日本語能力試験に合格することをめざす日本語学習者は多いが、読む技術は読解問題だけでなく文法問題を解くにも不可欠であり、聴解問題も選択肢を読まなければ解くことができない。学習者になるべく多くの読む機会を与えて、日本語を読むことに慣れさせることは、語彙学習の支援と同じくらい大切なことである。

多読による語彙導入と比べると、NRTには訳語があるため内容理解を保証する既知語占有率を気にする必要がなく、多くの語彙に対応することが可能である。また、多読

よりも少ない提示回数で語彙習得を開始させることができると思われる。語彙リストによる語彙導入、多読による語彙導入と比較して、学習者が取り組みやすく学習負担の少ない語彙導入方法を提示できたのではないかと思う。

一方、NRTによる語彙導入の欠点は、NRT用のテキストの準備に時間がかかることである。日本語教育のための narrow reading の教材はまだ見受けられず、現時点では教師が自ら教材を開発していかなければならない。トピックや目標語彙を選定し、提示回数を考慮したテキストを作成する必要がある。しかし、これからの言語教育は文法と同じくらい話題・内容が重視される流れがあり、学習者が必要とする語彙の数は増えていくと考えられるため、NRTを語彙導入に使う価値はあると思われる。

しかしながら、本実践にはいくつかの課題も残されている。既知語・未知語の確認も、語彙導入後の確認テストも○×で答える形式だったため、協力者の実態を必ずしも反映しているとは言えない。また、語彙導入前と語彙導入後に同一のテストを受けさせて結果を比較すべきであったと思う。これらの点を改善して実践を行うことに加えて、語彙習得を開始させるために必要な目標語彙の提示回数と語訳を消すタイミングの調査、さらに、活用によって形が変わる動詞・形容詞の導入なども今後の課題としたい。

参考文献

- 今井むつみ (1993) 「外国語学習者の語彙学習における問題点—言葉の意味表象の見地から—」 *Japanese Journal of Educational Psychology*, 41, 243-253.
- 岡崎眸・岡崎敏雄 (2001) 『日本語教育における学習の分析とデザイン:言語習得過程の視点から見た日本語教育』(日本語教師のための知識本シリーズ 1) 凡人社
- 小森和子・三國順子・近藤安月子 (2004) 「文章理解を促進する語彙知識の量的側面—既知語率閾値探索の試み—」『日本語教育』120, 83-92. 日本語教育学会
- 佐々木仁子・松本紀子 (2010) 『日本語総まとめN3語彙』(「日本語能力試験」対策) アスク出版
- 佐治伸郎・梶田祐次・今井むつみ (2010) 「L2習得における類義語の使い分けの学習: 複数のことばの意味関係理解の定量的可視化の試み」『日本第二言語習得学会誌』9, 83-100. 日本第二言語習得学会
- 松本茂・Gail K. Oura・Robert L. Gaynor (2015) 『速読速聴・英単語 Basic 2400 ver. 3』(速読 速聴・英単語シリーズ) 松本茂監修, Z会.
- 三上京子・原田照子 (2011) 「多読による付随的語彙学習の可能性を探る—日本語版グレイデッド・リーダーを用いた多読の実践と語彙テストの結果から—」『国際交流基金日本語教育紀要』7, 7-23. 国際交流基金
- 山口紗季・山下直子 (2020) 「日本語教育における語彙指導の重要性: 訳語付き narrow reading による語彙導入の提案」『香川大学教育学部研究報告』3, 25-33.
- Ellis, N.C. (1994). Consciousness in second language learning: Psychological perspectives on the role of conscious processes in vocabulary acquisition. *AILA Review*, 11, 37-56.
- Hirsh, D. & Nation, P. (1992). What vocabulary size is needed to read unsimplified tests for pleasure?. *Reading in a Foreign Language*, 8 (2), 689-696.
- Hu, M. & Nation, P. (2000). Unknown vocabulary density and reading comprehension. *Reading in a Foreign Language*, 13 (1), 403-430.
- Hwang, K. & Nation, P. (1989). Reducing the vocabulary load and encouraging vocabulary learning through reading newspapers. *Reading in a Foreign Language*, 6 (1), 323-335.
- Krashen, S. (2004). The Case for Narrow Reading. *Language Magazine*, 3 (5), 17-19.
- Laufer, B. (1989). What percentage of text-lexis is essential for comprehension? In C. Lauren & M. Nordman (Eds.) *Special Language: From Humans Thinking to Thinking Machines*, 316-323. Clevedon: Multilingual Matters.
- Laufer, B. (2017). From word parts to full texts: Searching for effective methods of vocabulary learning. *Language Teaching Research*, 21 (1), 5-11.
- Meara, P. (1980). Vocabulary acquisition: a neglected aspect of language learning. *Language Teaching and Linguistics: Abstracts*, 13 (4), 221-246.
- Nagy, W.E. & Herman, P.A. & Anderson, R.C. (1984). Learning words from context. *Reading Research Quarterly*, 20, 233-253.
- Nation, I.S.P. (1990). *Teaching & Learning Vocabulary*. Boston: Heinle & Heinle Publishers.
- Nation, I.S.P. (2001). *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Nation, P. & Wang Ming-tzu, K. (1999). Graded readers and vocabulary. *Reading in a Foreign Language*, 12, 355-379.
- Schmidt, R. (1990). The Role of Consciousness in Second Language Learning. *Applied Linguistics*, 11 (2), 129-158.
- Schmitt, N., Jiang, X. & Grabe, W. (2011). The Percentage of Words Known in a Text and Reading Comprehension. *The Modern Language Journal*, 95 (i), 26-43.
- Waring, R. & Takaki, M. (2003). At what rate do learners learn and retain new vocabulary from reading a graded reader?. *Reading in a Foreign Language*, 15 (2), 130-163.